



平成23年度

堀金地域審議会まとめ (経過報告)



平成24年3月26日

堀金地域審議会

《1》 はじめに

安曇野市は、誕生して早6年が経過し、新市の将来像と施策に向かって着実に歩んでいることに敬意を表します。堀金地域審議会も昨年4月に第4期目の委員が委嘱を受けてスタートしました。

堀金地域審議会は、合併直後という特別な状況化において地域の意向を市政に反映させるため、また堀金地域で積み残され、新市に引き継がれた様々な課題について審議を重ね提言してきました。そして、第4期目は、今までに審議してきた事項を検証しながら各委員より地域課題を提出していただき、地域コミュニティの活性化について三つのテーマを通し、市民と行政の両輪で、いかに考え構築していくべきかについて平成23年度は検討中であり、経過報告といたしました。

東日本大震災や不況の影響により、税収が減少している中であって、自治体経営が大変な時期ではありますが、市民にとって豊かな生活環境が整備され、住みよい社会になるよう一助を担いつつ行政運営にご期待申し上げます。

平成24年3月26日

安曇野市長 宮澤宗弘 様

堀金地域審議会
会長 黒岩英則

《2》 堀金地域審議会 これまでの経過

《第1期》

第1期堀金地域審議会は、平成18年6月2日付で諮問のありました「安曇野市総合計画基本構想に係わる地域課題・将来像について」、8回にわたり審議を重ね、平成19年2月21日に7項目にまとめ答申しました。

答申項目

- | | |
|------------|-----------|
| 1. 行財政防災分野 | 5. 都市基盤分野 |
| 2. 市民環境分野 | 6. 教育文化分野 |
| 3. 健康福祉分野 | 7. その他 |
| 4. 産業観光分野 | |

《第2期》

平成19年4月に市長から15人の委員が2期目の委嘱を受け、平成20年4月には4人の委員が交代しましたが、土地利用、本庁舎、最終処分場、公共交通、堀金児童館、堀金総合支所の有効利用、第三セクター等について議論を重ね審議を行い、次の2項目について提言しました。

提言項目

1. 堀金総合支所の空き部屋の有効利用と図書館について
2. 第三セクター「(株)ほりで一ゆ〜」について

《第3期》

平成22年4月19日に市長より「総合支所のあり方について」の意見が求められ5回にわたり審議を重ね、その結果、市長を筆頭に職員の「親切的な対応」を前提にまとめ答申しました。

地域課題としての提言は、

1. 本庁舎が建設された際には、現在の堀金総合支所を総合支所・公民館並びに図書館を核とした交流学习センター等の施設とすること。
2. 啼鳥山荘を利用した農業の活性化を図ること。
3. 加工所の利用が増加したため、市内の一般市民を対象とした加工施設の新築をすること。

以上3項目の審議事項について、実行されるよう提言しました。

《3》 平成23年度審議課題

堀金地域の課題を各委員より募り、その中から三つのテーマを選び、ワークショップを行いました。来年度は、その結果から共通点を探り、ひとつの形として提言できればと思います。

〜〜ワークショップの結果〜〜

テーマ1 《「地域福祉活動計画」実施にあたって》

社会福祉協議会主体で検討してきました「地域福祉活動計画」が今年度から実施の年となり行動の年となります。「助け合い 支え合い」をテーマに自分たちで住みよいまちを創りあげることが目的にしたものです。今回の東日本大震災においても最終的には頼りになるのは、家族・隣近所・地元地域です。みなで連携して住みよいまちづくりを検討しましょう。ということで、現状・課題・方向性の三つの視点から話し合いをしました。

【現 状】

今は昔と違って少子高齢化時代に入り、近所づきあいにおいてもお茶飲みの機会が少なくなり、親子でも同一敷地内に別棟で暮らす等、人間関係が希薄化しています。昔は農作業も家族や地域で行い、地域のリーダー的な存在もいて、冠婚葬祭も地域の共同作業で行い、子どもたちもそれを通して人間関係が豊かになっていきました。今では地縁性がなくなり、高齢化してひとりぼっちのお年寄りが増え、子どもたちも少子化で子ども同士のつきあい関係も塾やファミコン・ゲーム等でコミュニケーションの機会も少なくなっているのが現状です。

【課 題】

家族や地域、生まれ育った共同体の習慣や伝統によって決定されたような関係性が衰退し、人とのふれあう機会が減り、隣近所でも詳細な把握が困難なくらい人間関係も疎遠になってきています。しかし、昨年起きた大災害に感じられるように困ったとき、事故、災害があったとき、一番頼りになるのは身近にいる人です。個人保護の問題もありますが、今後は多少緩やかに考慮する必要があります。

【方向性】

基本的には人間関係が希薄化していることを全員が認識することが重要であり、具体的には、地域住民が利用しやすく、みんなが集まれるサロンのような場所やそれを支援する組織づくりが必要かと思います。それには、これまで様々な豊富な人生経験をされてこられた高齢者の方々を讃え、敬い、貴重な知恵と技術を学び、後世に伝える等、高齢者の能力を地域力の向上に役立てていただくことも大切かと思います。行政・民間団体等いろいろな組織がありますが、最も大切なことは人と人との繋がりは隣近所のつきあいからだと思います。そのためには、隣組長をはじめ地域で連携し、いろいろなことをさりげなく見守っていただき、近所住民が抱える「一つひとつの生活課題」を把握し、より良い方向に導くことが最も大切かと思います。

テーマ 2 《市民が一体感を持てる共同作業》

市民が地域の環境整備をやることによって、自分たちの住んでいるところに愛着が生まれ、一体感が持てるようになる。この課題について、環境美化・公園・農業の三つの視点から話し合いをしました。

1. 環境美化に関すること

【現 状】

- 1) 地域の一斉清掃デーが年2回ある。しかし、短時間で終了する。
- 2) どの地区でも、それなりの清掃作業はしているが公共的なモラルが欠如している。(例、飼い犬のしつけの問題等)
- 3) 一部の地区では各戸に花の苗を配布し、地区全体の美化に努めている。

【課 題】

缶拾いだけでなく、作業内容を充実させるために重点項目を決める。一斉清掃などでは、学校側、PTAとも話し合いをし、親子で作業する機会を増やす。

【方向性】

- 1) 清掃デーは年2回あるので、春は枯葉・枯草及びゴミ拾い等、生活道路の整備、秋は草刈り及びゴミ拾い等、自転車道・生活道路の整備を行い、親子で参加することにより、自分たちの環境を良くしていこうという意識を高め、自分の住んでいる地域の愛着心と次世代を担う子どもたちの情操教育に繋げる。この事業を区と行政で一緒に構築していくよう進める。
- 2) 土手などに犬の糞があり無線放送で注意を呼びかけているが、環境パトロール員による呼びかけが必要である。

2. 公園に関すること

【現 状】

公園整備に併せて夏祭りや三九郎等地域イベントが開催され、公園整備は地域づくりに活かされていますが一部は雑草に覆われている地域もある。

【課 題】

公園整備は、各地区の環境美化に対する意識の問題である。

【方向性】

公園には、整備活動の一環として花畑を作り、秋には花畑の品評会を開いたらどうか。

3. 農業による共同作業に関すること

【現 状】

- 1) 体験農場での共同作業ができるところはある。また、一部市民に開放された農場もある。
- 2) 児童館の隣にある坪庭では、子どもたちに農業関係者がボランティアで指導し、作付けした野菜の収穫祭を毎年行っている。
- 3) 定年後に仲間づくりをしながら農業するための窓口はある。

【課 題】

親子で農業体験ができる機会を作る。農業関係者の指導を受け、農業者と非農業者との交流を図る。

【方向性】

荒廃地の利用をして、楽しみながら収穫と利益があがる方法を考え、環境美化と食育にも繋げる。

テーマ3 《温かい子どもたちを育てるための絆づくり》

・・・課題に対して家庭や地域はどうあるべきか検証していく・・・

【現 状】

家庭や地域の教育力が落ちていると言われて久しいわけですが、子育ての問題点や改善点を探り、地域としてできることや守り創りあげていく、地域コミュニティづくりはどうあるべきか。

家庭・地域・学校・福祉の四つに分類して検討しました。

【課 題】

家庭については、家庭は、子どもの人間形成において最も重要です。子どもの発達に応じて家族のふれあい、食生活・基本的な生活習慣づくりが望まれます。

地域については、人間関係を育てるには、世代間交流をはかり、地域住民参加型のイベント等を通じ、一緒に創りあげていく喜び、参加して楽しむ喜びを互いに味わい、子どもたちは地域で育てていくという意識を持ち、子どもたちを見守る体制づくりが必要と思われます。

学校については、親と先生の信頼関係の構築、行政本位の教育ではなく子ども同士の関わりを大切とした教育の実践、スポーツ・レクリエーションを通じた小中学生の健康な体力づくりを向上させることです。

福祉については、親が安心して働ける施設の整備、悩み相談所、子どもも大人も交流できる場所の確保等、子どもたちを取り巻く関係団体が連携協力し、子育て支援を活発化させる必要を感じます。

【方向性】

子どもは家庭や地域の宝と考え、笑顔で声をかけ合うなどの交流をして、家庭や地域で温かい関係づくりをしていく必要性があると思います。

3期 提言書の検証について

平成23年3月11日に提言した三項目につきまして、下記のとおり報告及び説明を受けました。

1、堀金総合支所の有効利用について

平成23年9月28日「堀金総合支所等整備検討市民会議」が発足し、本庁舎建設後の堀金総合支所の利活用についての提言を踏まえ、総合支所・公民館並びに図書館等を備えた複合施設としての検討結果が平成24年2月23日に市長に報告されました。

2、啼鳥山荘を利用した農業の活性化について

啼鳥山荘は、現在「ほりでーゆ〜四季の郷」との一体施設として指定管理委託をしている。利用客は、堀金村時代に比べて大幅に増えており、4月〜11月（冬期間閉鎖）の期間で、大体4,000人の利用がある。指定管理者には、農業体験メニューを増やす努力をしていただき、特産祭り等のイベントで集客し、体験に繋げていくメニューづくり等、チャンネルは多い方がよいと感じている。受け入れ農家については、高齢化等に伴う農家の確保、受け入れ部分で量が足りない等の作付けの問題もあり、てこ入れをしないと上手く回っていかないという課題がある。地道な営業活動と体験メニューの取り入れで、引き続き指定管理者との協議によりまして有効利用に向けて取り組んでいきたい。

（農政課農政庶務担当より説明）

3、加工施設の現状と今後について

今ある施設は、市民の皆さまが優先して利用できる加工施設という位置づけである。ほりがね物産センターが新たに計画している販売用の加工施設との動線や部屋の仕切り等、使いやすいレイアウトに変更できないか検討している。

新たに建設を計画している加工施設については、食品衛生法の法体系・建築基準等の要件が整えば、遅くも平成24年度に着手できればという状況である。「ほりがね物産センター」が指定管理者として販売用の加工施設をどのようにしていくかは、常念ドームと現在の加工施設との間にスペースがありますので、その立地を含め建設に向けて準備を進めている。

（農政課農政庶務担当より説明）

《6》平成23年度 堀金地域審議会の開催状況

回数	開催日	審議内容
第1回	4月28日	議 事 1. 会長・副会長及び市地域公共交通会議委員の選出 2. 堀金地域審議会の今までの経過 3. 平成23年度一般会計予算の概要 4. 今後の日程 5. その他
第2回	6月24日	説明事項 1. 「地域福祉活動計画」について……社会福祉協議会説明 議 事 1. 「堀金地域課題の検討」について 2. 今後の日程 3. その他
第3回	8月19日	第3期提言書の検証について 1. 加工施設の現状と今後について 2. 啼鳥山荘を利用した農業の活性化について ……農政課より説明 説明事項 1. 観光と産業の発展について……ブランド推進室より説明 2. 今、子どもたちはどのような問題を抱えているのか ……市福祉事務所より説明 協 議 1. 福祉・子育て・環境等地域の役割について 地域審議会選出委員の選考 1. 市総合支所等整備検討市民会議委員 2. 市総合計画審議会委員 その他

第4回	10月17日	〈午 前〉 ワークショップ 1. 地域活動計画実施にあたって 2. 市民が一体感を持てる共同作業 3. 家庭や地域における子育て ……結果・まとめ発表 〈午 後〉 視 察 1. 野外保育「森の子」 2. 市民活動センター「くるりん広場」
第5回	12月13日	審議事項 1. ワークショップの結果と方向性について 2. 今後の日程について 3. その他
第6回	3月 5日	協 議 1. 平成23年度のまとめ 2. 来年度の取り組みについて 3. その他

～～～ 平成23年度堀金地域審議会委員名簿 ～～～

会 長	黒岩 英則	委 員	廣田万寿美
副会長	美濃輪喜和子	委 員	北林 澄子
委 員	矢澤 昇	委 員	等々力たか江
委 員	一志 茂夫	委 員	丸山優喜雄
委 員	宮澤 靖直	委 員	林 公也
委 員	板花 正廣	委 員	矢淵 美好
委 員	高橋 清美	委 員	伊藤 正住
委 員	青嶋 愛子		

以上 15人